

エキストラ

突然、携帯にメールの着信があった。

普段、ほとんどメールが来ることのない人からだったので少し驚いた。

そのメールの内容は、エキストラの依頼であった。

差し迫ったメールのようで、若干興味もあったのでの了解の返信をする。

内容は老人ホームのプロモーションビデオの作製のエキストラだとか。

勝手な想像でオープン前にホームの内容紹介で、様々な場面を多くのエキストラで撮影するのだと思っていた。

撮影現場は、閑静な住宅街を一〇分ほど歩いて行くと右手にある五階建ての建物だ。

現場に行ってみると、想像とは違ってすでにオープンしている。

早速、撮影スタッフに紹介されるが、他の工

キストラの人達が見当たらない。

「他のエキストラの方は？」

「何人かいますよ。」

とは言うものの、よく聞いてみると、私以外にもう一人だけ。

もう一人の方は、私よりかなり年配の様だった。

簡単な打ち合わせで、私は左半身不随の役、もう一人は車いすと決まる。

業界ではエキストラじゃなく、モデルと呼ぶらしい事もわかった。

最初のシーンは、食堂で実際に入所されてる方と一緒に食事のシーン。

もう一人のモデルの方と並んで、出された食事を食べる。

「何か楽しそうな話をしながら、食事をしてください。」とスタッフ。

演技が必要とは聞いてなかったぞ、思いながらも話しかける。

隣のモデルが、返事する程度で話しかけてこない。
これじゃー楽しい会話のキャッチボールが出ないじゃないか。
それでもテレビカメラ一台と、スチールカメラが二台でその食事風景を撮っている。
見られていると、なかなか味わって食べると言う訳にもいかない。
「はい、オツケーです。」
と言われてから、残りのご飯を慌てて食べた。献立は野菜と豚肉の炒めもの、かぼちゃの煮つけ、酢の物に味噌汁だった。
後で入所の方が、食事のヘルパーさんにくれ！
とちょっと怒っていた。
確かに関係ない人には迷惑な話だろうと思っ
た。

さて食後の撮影は、部屋で薬剤師の方からの

薬の説明。
部屋は個室でベッドや机、椅子にテーブルな
どが用意されたモデルルームを使用して行っ
た。
部屋の椅子に座って、本を読んでいると
「失礼します、お薬の説明に来ました」と声
が
「はい、どうぞお入りください」
ひととおりの薬についての説明がなされる。
その後廊下をリハビリで歩くシーンの撮影。
「左半身不随ですから、大丈夫ですね」
「はい、大丈夫です」
「ちよつと練習してみましようか」
そう言われて、杖をついて歩いて見せる。
右手に杖を持って、左足を出す。
「あれ、それはちよつと変ですよね」
「えー、何故ですか？」
「左半身不随ですから、右足を出して左足は
引きずる感じになるはずですよ」
言われてみれば、確かにそうなのかも知れな

い。

こういう事は身近にそう言った方がいるか、介護の経験がないと気が付かない。

言われたように、右手の杖を前に出して右足を一歩進め、左足を引きずるように進める。歩きながら、障害を持つ方の苦勞が少しだけわかったような気がした。

廊下を、杖をつきながら、数メートル歩き「はい、オツケーです」の声を聞いた時、ほつとした。

次は朝のシーン

まず、パジャマからシャツに着替えるシーン。部屋のベッドに横になっていて、「コンコン」とノック。

「おはようございます、起きましょうか」ヘルパーさんに手伝ってもらいながら着替えるがこれも左手が使えないので、結構大変である。

着替えが終われば今度は歯磨き。

歯磨き粉はヘルパーさんにブラシにつけても
らい、自分で歯磨きをする。
顔を洗って、片手でタオルを持って顔を拭く
さて順調に撮影も進み、次はサロンでの撮影
相手は入所されてる方で、楽しそうに将棋を
するシーン。別に将棋でなくてもよかったが
サロンにあるのは将棋とオセロだった。
将棋は駒の動かし方は知っているが、ほとん
ど近ごろやったことが無い。多分中学生くら
いの時に、やったのが最後かもしれない。大
丈夫かなと思っていたが、このシーンは、数
手打ってすぐに終わった。
良かった、助かった。
その後今度は、施設の外に出かけるシーン。
最初は施設の車でデイサービスが送迎
の撮影。
車に乗って行くシーンを撮って、その後今度
は買い物に行くのに、ヘルパーさんに付いて

、
。
。

もらって歩道を歩くシーン、もう時刻は4時ころになっていた。

最後のシーンは、なんとベッドの横で倒れているところからのスタート。

何とか這いずってベッド横の壁のナースコーンを押す。

ヘルパーさんが来てくれて

「どうしました、大丈夫ですか？」

「ええ、転んじやって起られないんです」
抱えられながら起き上って

「どこも痛いところはありますか？」

「大丈夫です、ありがとうございます」

ナースコーンを押しとこのアツプとかも撮影。

これですべて撮影は終了。

いやはや、馴れないことで終わってみれば結構疲れた。

だが、初めての経験で実に面白い体験をさせてもらった一日だった。